

成果の説明書

| | |
|--|-------------|
| (氏名) 若林 隆久 | (学部) 地域政策学部 |
| 1 重要事項 | |
| (1) 研究 | |
| <ul style="list-style-type: none">● ChatGPT を用いた AI コーチが実装された Reflect という振り返りの支援・共有ツールの研究に本格的に着手し、学会発表を行った (研究成果 1、研究費 B)。● 地域におけるリーダーシップに関するコロナ禍により延期していたインタビュー調査を完了し、メンバーによる 3 回の事例報告会を行った (研究費 C)。● 兼ねてから行っているビデオゲームに関する抽選状況を利用した研究について Nature Human Behaviour 誌に論文を投稿中である (研究費 E)。 | |
| ① 研究成果 | |
| 【口頭発表・講演など】 | |
| 1. 若林隆久・杉谷賢一・合田美子 (2023)「振り返りの支援・共有ツール” Reflect” を活用した振り返り能力の向上—教員による介入と ChatGPT を活用した AI コーチ—」第 48 回教育システム情報学会全国大会, 近畿大学東大阪キャンパス / オンライン. (2023 年 8 月 30 日) | |
| 2. 若林隆久 (2023)「ChatGPT などの電子ツールを用いた教育・実務」2023 年度高崎経済大学公開講座, 群馬: 高崎経済大学 111 教室. (2023 年 10 月 16 日) | |
| ② 研究費 | |
| (A) 科学研究費助成事業・若手研究の課題番号 19K13804「個人間ネットワークがもたらす組織活性化の定量的・定性的研究」(2019 年度～2022 年度、研究代表者: 若林隆久) 継続 (https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19K13804/)。 | |
| (B) 令和 5 年度高崎経済大学研究奨励費「振り返りの支援・共有ツールを活用した、振り返りを通じたメタ認知およびリーダーシップの育成方法の探求」の採択 (個人) | |
| (C) 令和 2 年度地域科学研究所研究プロジェクト「現代の地域におけるリーダーシップのあり方の研究」継続 (研究代表者: 若林隆久)。 | |
| (D) 令和 4 年度地域科学研究所研究プロジェクト「地方都市における中小製造業の情報化に関する研究」継続 (研究代表者: 藤本哲)。 | |
| (E) 公益財団法人 電気通信普及財団 研究調査助成「ビデオゲームがメンタルヘルスに与える影響の解明: 自然実験と機械学習を用いて」採択 (研究代表者: 江上弘幸) | |
| (F) 一般社団法人 日本経営協会 2023 年度経営科学研究奨励金「ChatGPT を活用した AI コーチによるチーム形成過程の解明および開発・実装」採択 (個人) https://www.noma.or.jp/keiei/tabid/258/Default.aspx | |
| (G) 公益財団法人日本生産性本部 2023 年度生産性研究助成「ChatGPT を活用した AI コーチを活用したチームのマネジメント—アクター・ネットワーク理論に基づくチームの一員としての AI の可能性—」採択 (個人) | |
| (2) 教育 | |
| ① 講義 | |
| 前期には「経営学」と「キャリアデザイン論」、後期には「経営分析」の講義を担当した。また、「地域政策を考える」の担当回で講義を行った。多摩美術大学生産デザイン学科の「テキスタイルデザインマネージメント」(藤原大教授)の授業において、1 回のゲスト講義を行った。 | |
| ② 演習 | |
| 基礎演習および演習 I・II では、リーダーシップ教育、アクションラーニング、インプロ、などを導入し、ChatGPT を用いた AI コーチが実装された Reflect というツール | |

も活用してゼミを行った。課外活動として、フランス・パリにおける海外フィールドワーク（8月15～19日）、群馬の地酒動画コンテストへの2グループ参加（最優秀賞と優秀賞）、三扇祭への模擬店出店（模擬店総選挙2位、前年3位）、を行った。

（3）社会における活動

① 令和6年度 公認会計士試験 試験委員（経営学）

12月1日より令和6年度 公認会計士試験 試験委員（経営学）を務めた。

② 一般社団法人経営研究所「人材開発と組織」研究会 コーディネータ

経営研究所の「人材開発と組織」研究会において、コーディネータを務めた。

③ 日本生産性本部・経営アカデミー「組織変革とリーダーシップコース」講師

日本生産性本部・経営アカデミーの「組織変革とリーダーシップコース」において、「現代型ネットワーク組織論」という講義を行った。また、グループ指導講師を務め、「企業版脱成熟：現状から一歩踏み出すために」という論文作成の指導を行った。

2 その他の事項

- 高崎経済大学 地域科学研究所 編集委員長・運営委員や競争的資金等不正防止推進委員会委員をはじめとした学内業務を行った。
- 群馬県創業支援連携会議の委員として、関連する会議・業務などに携わった。
- 研究・教育の一環として、LCP 資格認定コース（Leadership Circle）、ファシリテーションスキル研修／Wayfinder 研修（Purpose 編）「初級」（一般財団法人活育財団）、第1回人間関係講座（オンライン）（南山大学人間関係研究センター）、心理的安全性アンバサダー認定ワークショップ、心理的安全性インプロファシリテーター認定ワークショップ（日本即興コメディ協会）、カリキュラム・コーディネーター養成講座（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）、研究室指導に必要なコーチング技能入門、アカデミック・アドバイジング入門、ティーチング・ポートフォリオ作成 WS（芝浦工業大学教育イノベーション推進センター）、変革リーダーズセミナー「行動探求 変容を導くリーダーシップ」（有限会社チェンジ・エージェント）、インプロアカデミー、などの各種講座を受講・修了した。

3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、①新たに採択された研究費を活用しながら、Reflect および AI コーチに関する研究および教育実践を、対象を広げながら進めていく。②「現代の地域におけるリーダーシップのあり方の研究」の書籍を執筆・編集する。③「地方都市における中小製造業の情報化に関する研究」の担当章を執筆する。④ビデオゲームに関する抽選状況を利用した研究について投稿中の論文の採択を目指す。

教育面では、インストラクショナル・デザインの知見に基づきながら、新たに本学に導入された LMS（WebClass）などのツールを有効に活用した「対面／オンライン」あるいは「同期／非同期」を適切に組み合わせた講義・ゼミの確立・改善に継続的に取り組んでいく。特にゼミにおいては、これまでの取り組みに加えて、アクションラーニングやデザイン思考の手法をより活用した商品企画やキャリア教育に力を入れつつ、Reflect および AI コーチも用いたリーダーシップ、振り返り、経験学習の能力を向上させる教育実践に取り組む。長年携わっている経営アカデミー 組織変革リーダーシップコースにおいても、リフレクションシート、Reflect および AI コーチ、相互コメント・相互フィードバックを用いたより効果的なリーダー研修の設計・実施に取り組む。

さらに、自身のポートフォリオを作成することも含めて、自身の研究成果・教育実践・社会貢献活動などについての情報発信を積極的に行っていく。